

「モンゴルの遊牧文化」ユネスコ無形文化遺産登録記念

ゲルと草原の物語

絵本原画と生活道具

Tales of Mongolian Ger and Grasslands:
Picture Books and Tools of Daily Life

2025年4月26日(土)～7月6日(日)
Saturday 26 April to Sunday 6 July 2025

会場 3階企画展示室
Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般800円

小・中学生、横浜市内在住65歳以上400円

Admission: ¥800 for adults

¥400 for primary and junior high school students,
and city residents 65 years old and above



横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m.～5:00 p.m. (券売は4:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始 (12月28日～1月3日)

観覧料 一般200円

小・中学生、横浜市内在住65歳以上100円

特別展・企画展の観覧料は別途定めます。

毎週土曜日は、小・中学生、高校生は無料です。

「身体障害者手帳」、「愛の手帳(療育手帳)」、「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

12 Nihon Odori, Naka-ku, Yokohama, Japan 231-0021

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

Hours 9:30 a.m.-5:00 p.m.
(Admission until 4:30 p.m.)

Closed Mondays (except Holidays) year-end/New Year's
recess (28 December 2025 to 3 January 2026)

Admission ¥200 for adults
¥100 for primary and Junior high school students,
and city residents 65 years old and above

- ・2025年4月24日(木)・25日(金)は、展示替えのため2階常設展示室は休室。
- ・2025年6月2日(月)開港記念日は開館、3日(火)休館。



みなとみらい線「日本大通り駅」3番出口すぐ
JR「関内駅」南口・市営地下鉄「関内駅」
1番出口から徒歩約10分

Zero min. walk from Nihon Odori Sta.
on the Minato Mirai Line.
10 min. walk from Kannai Sta.
on the JR Line or Municipal Subway.

<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia No. 41 横浜ユーラシア文化館ニュース 第41号 2025年4月26日

企画・編集/横浜ユーラシア文化館 発行/(公財)横浜市ふるさと歴史財団 題字ロゴ/有限会社ポイドシステム

印刷製本/株式会社佐藤印刷所 禁無断転載 ©2025 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース



『モンゴル大草原800年』より
絵・バーサンスレン・ボロルマー



アートウォッチング
Art Watching

2

馬乳酒のまつり

Airag Festival

ギャラリートーク
Gallery Talk

4

絵本でつなぐモンゴルと日本

—「ゲルと草原の物語」に寄せて—

Connecting Mongolia and Japan through
picture books

横浜・この街に生きる — 多文化共生都市の主役
Diversity of Yokohama

6

第4回 ツェデンダンバ ツェレンバド

横浜で走り続けて20年

No.4 Tsedendamba Tserenbat

実施報告
Reports

8

・令和6年度 横浜ユーラシア文化館特別展
「思い出のチマ・チョゴリ」

・ベリ一提督像お披露目会

・第四回 横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアム

催し物案内
Exhibitions and Events

10

企画展予告

「山本博士コレクション 横浜・東西文化のランデブー」

表紙写真: 馬乳酒のまつり (模写) 部分
国立民族学博物館蔵

横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

No. 41

馬乳酒のまつり

竹田多麻子 TAKEDA Tamako



馬乳酒のまつり (模写)
B. シャラヴ (1869-1939) 作
1910年代 192×142 cm
国立民族学博物館蔵
原資料はモンゴル国立ザナバザル記念美術館が所蔵

Airag Festival (reproduction)
Balduugiin Sharav
(1869-1939) 1910s
Owned by the National
Museum of Ethnology, Japan
Original materials owned by
the Fine Arts Zanabazar
Museum, Mongolia

表紙でご紹介した絵は、モンゴルにおける近代絵画の先駆者といわれるシャラヴによる「馬乳酒のまつり」の模写の一部分です。今春開催する企画展「ゲルと草原の物語」では、モンゴル人絵本作家バーサンスレン・ボロルマー氏とイチンノロブ・ガンバートル氏の絵本原画とともにシャラヴのこの作品を展示します。

この絵には、その年初めての馬の搾乳を祝い、出来立ての馬乳酒を楽しむ様子が描かれています。

馬乳酒とは、馬の乳を原料とした発酵酒です。古代から騎馬遊牧民が飲んできたといわれ、モンゴル人にとっては伝統的な飲み物です。色は白く濁っており、お酒と言いつつもアルコール度数は1～2%程度しかなく、酸味があります。馬の搾乳は夏に始まり秋まで続くので、現在でもその間は毎日馬乳酒が作られ、大人だけでなく子どもも皆好んで飲んでいます。

表紙の絵の中央部分には、青いテントの下で馬乳酒の入った甕や樽を前に儀礼を執り行う高僧やお酒を楽しむ貴族や女性、子どもたち。その周り

では、馬の搾乳、馬乳酒作り、馬への焼き印や去勢の作業、儀礼の様子など、20世紀初めの草原で生きる遊牧民の夏の暮らしが詳細に、そしてユーモアあふれた表現で表されています。ここでは、その暮らしの一部を生活道具とともにご紹介します。

この企画展ではシャラヴの模写作品だけでなく、そこに描かれた生活道具なども展示します。道具の実物を目にしたり、道具そのものを絵の中から探したりして、モンゴルの遊牧生活を楽しんで頂ければ幸いです。
(YMEAC 主任学芸員)

参考文献

石井智美「白い食べものと赤い食べもの」『アジア読本モンゴル』、小長谷有紀 編、河出書房新社、pp. 27-35、1997年
小長谷有紀『モンゴル万華鏡』角川書店、1992年
小長谷有紀・楊海英編著『草原の遊牧文明—大モンゴル展によせて』財団法人千里文化財団、1998年

※2-3頁掲載資料 国立民族学博物館蔵



馬乳酒用革袋
(青いテントの右端) 牛の革袋に入れて発酵させた馬乳酒を攪拌する男性。



儀礼用匙
(作品左上) 9つ穴のある儀礼用の匙で、天地に乳を振りまく騎乗の男性達。



搾乳用桶
(作品左下) 仔馬をおとりにした馬の乳搾りの様子、木製の桶の中に乳を搾る女性。



五徳
(作品中央下) 五徳で熱した道具で、馬への焼き印や去勢作業を行う。



The cover of this booklet is a part of the painting titled "Airag Festival", which was painted by Balduugiin Sharav, who is regarded as a pioneer of modern Mongolian painting.

The exhibition "Tales of Mongolian Ger and Grasslands: Picture Books & Tools of Daily Life" presents this work by Sharav together with original illustrations from picture books by Mongolian authors Baasansuren Bolormaa and Ichinnorov Ganbaatar.

This piece depicts the Airag Festival, which celebrate the first horse milking of the year. People enjoy fresh *airag*, or fermented horse milk, a traditional beverage in Mongolia made from mare horse milk.

Airag is a traditional nomadic drink, which is said to have been drunk by ancient horse-riding nomads. It is a cloudy white drink with a sour taste, and an alcohol content of just 1-2%. During the horse milking season, which lasts

from summer through to autumn, *airag* is made every day and enjoyed by people of all ages, from children to adults.

In the center of the cover, a high priest is performing a ritual under a blue tent, in front of a jar containing *airag*. Nobles, women and children enjoy drinking *airag*, surrounded by detailed and humorous depictions of early 20th century steppe nomad summer life: milking of horses, stirring of mare milk to make *airag*, branding and castration of horses, and ritual activities. Some aspects of nomadic life are shown above along with the tools of daily life.

This exhibition displays a reproduction of this picture by Sharav, as well as the everyday items depicted in the books. We hope that you enjoy the life of Mongolian nomads, by looking for the actual items depicted in the pictures, and vice versa.

絵本でつなぐモンゴルと日本 —「ゲルと草原の物語」に寄せて—

Connecting Mongolia and Japan through picture books

バーサンスレン・ボロルマー Baasansuren Bolormaa
イチンノロブ・ガンバートル Ichinnorov Ganbaatar
モンゴル語翻訳・津田紀子 Mongolian Translation by Tsuda Noriko

企画展「ゲルと草原の物語」では、日本で活躍するモンゴル人絵本作家ボロルマー氏とガンバートル氏の作品原画「トヤのひっこし」と「モンゴル大草原800年」を展示します。ここでは、幼い時の思い出、絵本との関わりについてお二人にご寄稿いただきました。



左) ガンバートル氏 中) ボロルマー氏
右) 津田氏

『モンゴル大草原800年』より
(ガンバートル文 ボロルマー絵 津田紀子訳/福音館書店)

私たちは、モンゴルの首都ウランバートルに生まれ育ちましたが、遊牧民の伝統的な暮らしは子供の頃からとても身近にありました。

ボロルマー：幼い頃から、休日や夏休みは、近くの草原に住む祖父母の家で過ごしていました。祖父母の家では、馬、牛、ひつじ、やぎ、にわとり、豚を飼っていて、私はこやぎやこひつじと遊んだり、乳しぼりをしたりするのを楽しみにしていました。はじめて母馬の乳しぼりをしたときには、乳房のやわらかさにびっくりして、爪で傷つけてしまうのではと思うくらいでした。一般的に、モンゴル人は、五家畜（馬、牛、ラクダ、やぎ、ひつじ）のなかで、馬が一番賢いと思いますが、私は牛が一番賢いと思っています。なぜなら、毎朝、家畜は草を食べに放牧地にでかけますが、夕方になると、牛だけが決まった時間に、一列に並んで、朝と同じ道を通って、帰ってくるのですから。祖父母の家は、そんな小さな発見や楽しいことがたくさんありました。

ガンバートル：父が風景画家だったので、物心ついた頃から、自宅はまるでアトリエのようでした。毎年夏になると、父は私を連れてモンゴル各地へスケッチ旅行に出掛けました。モンゴルというと、どこまでも広がる大草原を思い浮かべるかもしれませんが、実際にモンゴルの大地を旅すると、草原だけではなく、砂漠、奇岩が並ぶ岩山、海拔3000メートル以上の高い山々など、さまざまな風景が広がっています。絵本「トヤのひっこし」（福音館書店）では、このモンゴル各地の美しい風景をすべて描きだそうとつとめました。

このように、私たちは子供の頃に自ら体験した遊牧民の暮らしや文化、祖父母から聞いた民話や伝説をもとに絵本を作っています。しかし、社会主義国だったモンゴルには、欧米や日本で発展してきたような絵本はありませんでしたから、絵本に親しんで育ったわけではありません。大きくなってから、ロシアの短期間の絵本ワークショップに参加したり、イタリアや日本の絵本コンクールに応募したりして、絵本を知ったのです。

2008年に日本にやってきた私たちは、あとさき塾の絵本ワークショップや文教大学の中川素子先生のもとで本格的に絵本を学びました。そして、経験豊かなたくさんの編集者と出会い、学びながら絵本をつくってこられたのは本当に幸運だったと思います。

モンゴルでは、絵本はまだ多くありません。私たちが「日本で絵本をつくっている」というと、「マンガですか？」と聞かれることもあります。私たちはこれからモンゴルでたくさん良い絵本を出して、絵本を広めていきたいと思っています。

We were born and raised in Ulaanbaatar, the capital of Mongolia, but the traditional life of the nomadic people has been very familiar to us since our childhood.

Bolormaa: From a very young age, I spent my holidays and summers with my grandparents, who lived in the nearby steppe. At my grandparents' home, I always enjoyed playing with kids and lambs and milking the animals. When I milked a mare for the first time, I was amazed at the softness of her udder. While Mongolians say that horse is most intelligent among the five domestic animals, horse, cow, camel, goat and sheep, I believe that cow is most intelligent. This is because only the cow return from the pasture, forming a line, on the same way, and at the same time every day. My grandparents' home was full of such little discoveries and fun things.

Ganbaatar: Since my father was a landscape painter, every summer I went sketching with him in different areas of Mongolia from a very young age. When you think of Mongolia, you might think of a vast steppe. In reality, if you travel Mongolia, you may see not only steppe, but also desert, rocky mountains with strange rocks, and mountains over 3,000 metres above sea level. In the picture book *Toya no Hikkoshi* (Fukuinkan Shoten), I tried to depict the beautiful landscapes of different regions of Mongolia.

Our picture books are based on the nomadic lifestyle and culture, which we have experienced as children, and on the folk tales and legends, which we heard from our grandparents. Since Mongolia was still a socialist country in our childhood, there were no picture books like in the Western world and Japan. Therefore, we did not grow up with picture books. As an adult, we learned about picture books by attending picture book workshops in Russia and participating in picture book competitions in Italy and Japan.

We came to Japan in 2008 and started studying picture books in earnest. We were very lucky to learn from many experienced editors and create picture books with them.

There are still not many picture books in Mongolia. When we tell Mongolians that we make picture books in Japan, they think our books are manga. We would like to publish and promote many good picture books in Mongolia in the future.



ツェデンダンバ ツェレンバド 横浜で走り続けて20年

パーソナルトレーナー・トライアスロン選手

Tsedendamba Tserenbat
Personal Trainer, Triathlete



当館にて 2024年12月 撮影：竹田多麻子
At Yokohama Museum of EurAsian Cultures
Photo by Takeda Tamako

今年で来日20年になるというツェレンバドさん。
当館の活動に10年以上携わってくれています。

モンゴル国の首都ウランバートルから北に350km
離れたボルガン出身で、7人兄妹の末っ子です。山
があり木材のとれる地域だったのでゲル（モンゴル
の移動式住居）ではなくログハウスでの暮らしでし
たが、6月からの夏休みになると2か月近く田舎の親

戚のところへ行き、ゲルでの生活を楽しみリフレッ
シュしていました。日本へ来たのは留学のために、
日本語の習得だけでなく大学では応用化学を専攻し
陸上部で体を鍛えました。現在は家族で横浜に住
み、桜木町で大手フィットネスクラブのパーソナル
トレーナーとして幅広い年齢層の方を指導しなが
ら、トライアスロンの選手として活躍しています。

横浜ユーラシア文化館を知ったのは、本当に偶然
でした。乗っていた車の中で流れてきたラジオ番組
で、モンゴル関係のイベントが行われると聞いたの
が最初。そこでモンゴルのことに詳しい学芸員と知
り合い、つながりができました。ゲルの組み建てや馬
頭琴演奏会、展示するモンゴル家具の購入手配など
いろいろなことに関わり、日本人とモンゴル人の交
流の場を作ってきました。モンゴルの家具は当館 2
階の常設展示室前の「スーホの部屋」で見ることがで
きます。ツェレンさんの名刺の裏には「横浜ユーラシ
ア文化館サポーター」とあり、ユーラシア文化館をま
だ知らないという人に会うと館を紹介してくれる心
強いサポーターです。

水泳、バイク、ランニングの3種目の成績で競うト
ライアスロン。種目の一つであるランニングを指導
していた縁で、6年前から自身も競技に出場するこ
とになりました。マラソンは経験者であり、自転車は通
勤で毎日使っていたのでとは水泳を練習するのみ
と思っていましたが、モンゴルには海もプールもな
く水泳は初体験。最初は泳ぐと沈んでしまい、25m の
プールでも泳げませんでしたが、猛特訓の末、水泳を
習得、2023年には日本国内大会のミドル種目でエイ
ジ1位となり、さらに中国で開催されたアジア競技
大会ではモンゴル代表に選ばれました。その成績が
注目されて昨年4月には日本国内唯一のトライアス
ロン専門雑誌に特集として紹介されました。体力や
精神力の限界に挑戦することで自分を成長させるこ
とができるのがトライアスロンの魅力と語ります。

日課としているのが、朝夕に臨港パークから山下

公園までの5キロを往復ランニングすること。海沿
いの美しい眺めを見つつ運動できることに感謝して
います。来日してから横浜で過ごす時間のほうが長
くなり、今や横浜が地元、臨港パークは自分の家の
庭のように感じています。

（YMEAC主任学芸員）

Tserenbat is from Borgan, in northern Mongolia.
He lived in a log house, not a ger (mobile home),
because this region was mountainous and timber is
available. During the summer holidays, however, he
used to live in a ger with his relatives in the country-
side for nearly two months to refresh himself. He
came to Japan to study applied chemistry at the
university, and he also trained his body as a member
of the athletics club. He currently works as a personal
trainer at a major fitness club in Sakuragi-cho,
Yokohama, teaching people of all ages. At the same
time, he also competes in triathlon races.

He says that he found out about Yokohama
Museum of EurAsian Cultures by pure chance. He first
heard about a Mongolian event at the museum on
the car radio. At the event, he came to know the
curator in charge of Mongolia, and from then on, he
was involved in many things related to the museum:
building the ger, organising *morin khuur* (Matouquin
in Chinese) concerts, and arranging the import of
Mongolian furniture for the exhibition. He created a
place for Japanese and Mongolian people to interact
with each other. The imported Mongolian furniture
can be seen in the "Sukh's Room" in front of the
permanent exhibition room on the second floor of
the museum. On the back of his business card, it says
"Yokohama Museum of EurAsian Cultures Support-
er"; he is a reassuring supporter of the museum, who
promotes the museum to everyone he meets.

Six years ago, he started competing in triathlon,
which consists of swimming, cycling, and running.
He was an experienced marathon runner and rode a
bicycle to work every day, but since there was no



日本エイジグループナショナルチャンピオンシップ
宮崎大会で完走（2022年）
After finishing the race at Miyazaki, 2022.

swimming pool in Mongolia, a country without sea,
this was his first time swimming. At first, he sank and
couldn't even swim in a 25m pool, but after intensive
training, he mastered swimming. In 2023 he was
ranked first in a middle-distance race and was
selected to represent Mongolia at the Asian Games
in China. His achievements have attracted attention
and he was featured in Japan's only triathlon
magazine in April last year. Tserenbat says that the
appeal of triathlon is that it allows him to improve
himself by challenging his physical and mental limits.

His daily routine is to run 5 km return trip from
Rinko Park to Yamashita Park, in the morning and
evening. He appreciates exercising with a beautiful
seaside view. Since he has spent more time in
Yokohama than in Mongolia now, he says that he
now feels like Yokohama is his hometown, and Rinko
Park his home garden.

横浜市・仁川広域市パートナー都市提携15周年記念
令和6年度 横浜ユーラシア文化館特別展

「思い出のチマ・チョゴリ」

The special exhibition, "Chima Jeogori in Memories"

伊藤泉美 ITO Izumi



左上) 開幕式
The opening ceremony
上中) 会場の様子
The exhibition work
上右) 関連講演会
Lecture
下左) 韓服衣装体験
Let's try Hanbok
下中)
仁川広域市立博物館での
資料返却作業の様子
Inspection work
下右) 同時開催国際局
主催写真展
Photo Exhibition

2024年10月4日(金)から2025年1月5日(日)まで特別展「思い出のチマ・チョゴリ」を開催した。仁川広域市立博物館や国内の文化学園服飾博物館・在日韓人歴史資料館より、朝鮮王朝時代から現代までの衣装と装身具などを借用し、朝鮮半島の伝統的衣装であるチマ・チョゴリの歴史や文化を紹介した。また、両市に暮らす国籍や民族を超えた多彩な人びとの思い出のチマ・チョゴリを、その衣装に込められたストーリーとともに紹介した。衣装というモノ資料を通して、日本に暮らすコリアン系の人びとの存在と歴史に触れた企画が注目を集め、新聞やテレビなど各種メディアで大きく報じられた。観覧者からは、「初めて実物の朝鮮王朝の服飾品を見られて感動した」「チマ・チョゴリの歴史・多様性とともに、それを着た方々の人生にも思いをはせた」などの感想が寄せられた。また、大変好評であった韓服の衣装体験は、神奈川韓国総合教育院と在日大韓民国婦人会神奈川県本部のご協力を得て実施することができた。多文化共生都市横浜の博物館として今後もこうした営みを重視していきたい。

(YMEAC 副館長)

The special exhibition "Chima Jeogori in memories" was held from Oct.4, 2024 to Jan.5, 2025. This exhibition was held in commemoration of the 15th anniversary of the establishment of partner cities relations between Yokohama and Incheon Metropolitan City in 2024.

At the venue, Chima jeogori, traditional costumes of the Korean peninsula, and accessories from the Joseon Dynasty to the present, which were borrowed from Incheon Metropolitan City Museum, Bunka Gakuen Costume Museum and the History Museum of J-Koreans, were exhibited to introduce the history and culture of the Chima jeogori. The exhibition also introduced the memories of the Chima jeogori of various people of both cities, regardless of nationality or ethnicity, along with the stories behind the costumes. This project, which touched on the existence and history of the Korean people living in Japan through the material of their costumes, attracted much attention and was widely reported in newspapers and on TV.

ペリー提督像 お披露目会

高橋健 TAKAHASHI Ken

2024年10月19日(土)、新作スタチュー・ペリー提督像のお披露目会が、前年度に実施したクラウドファンディングの支援者とメディアを招待して行われました。西川館長の挨拶、学芸員による各地のペリー像の紹介、今回の製作に至る経緯の説明などの後、新作スタチューの除幕式が行われました。スタチュー・パフォーマー C.C.さんによる圧倒的なクオリティの銅像に、驚きの声が上がっていました。(YMEAC 主任学芸員)



完成したペリー提督像



除幕式の様子

第四回 横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアム

4th Yokohama EurAsia
Statue Museum

高橋健 TAKAHASHI Ken



2024年11月16日(土)・17日(日)、二年ぶりとなる横浜ユーラシア スタチュー・ミュージアムを開催いたしました。おなじみの日本大通りと横浜中華街に加え、今年はみなとみらいの運河パークにもスタチューを設置しました。昨夏の猛暑の影響もあって銀杏並木はまだ色づいていませんでしたが、2日間で計17組、石像、銅像、人形などさまざまなスタイルのスタチューを道行く人々に楽しんでいただきました。新作スタチュー「ペリー提督像」の一般公開も行われ、嘉永7年(1854)以来170年ぶりに横浜の地にペリー提督(像)が立ちました。(YMEAC 主任学芸員)



みなとみらい会場の赤い靴の女の子



170年ぶりに横浜に上陸したペリー提督(像)

2025年 春 企画展

横浜ユーラシア文化館令和7年度企画展「モンゴルの遊牧文化」ユネスコ無形文化遺産登録記念
ゲルと草原の物語—絵本原画と生活道具
 Special Exhibition "Tales of Mongolian Ger and Grasslands: Picture Books and Tools of Daily Life"



バーサンスレン・ボロルマー 「誇り高く自由に」2018年

2025年4月26日(土)～7月6日(日)
 Saturday 26 April to Sunday 6 July 2025

2024年12月にモンゴルの遊牧文化がユネスコの無形文化遺産に登録されたのを記念して、本展では日本で活躍するモンゴル人絵本作家バーサンスレン・ボロルマー氏とイチンノロブ・ガンバートル氏による絵本原画とともに、そこに描かれているさまざまな生活道具を展示してモンゴルの遊牧生活とチンギス・ハンの時代から現代に至るまでの歴史を紹介します。



嗅ぎ煙草入れ
 国立民族学博物館所蔵

関連講座「現代のモンゴルを知る」 **事前申込**

時 間 14:00～(1時間30分程度) 受付は13:30～
 定 員 各回100名 応募多数の場合は抽選
 参加費 各回800円
 申込締切 第1回 5月26日(月)、第2回 6月2日(月)

第1回 6月15日(日)
現代モンゴル遊牧民の生活世界にあるモノ—利用をめぐる交渉術

講 師 堀田あゆみ
 (立命館大学サステナビリティ学術センター客員研究員)
 会 場 横浜市開港記念会館1号室

第2回 6月21日(土)
現代モンゴルにおける仏教実践と化身ラマ

講 師 島村一平(国立民族学博物館教授)
 会 場 横浜市開港記念会館6号室

事前申込

①氏名(フリガナ)、②住所、③電話番号、④講座、イベント名を明記の上、当館ホームページまたは往復ハガキでお申込みください。



申込先

http://www.eurasia.city.yokohama.jp/exhibitions/
 〒231-0021 横浜市中区日本大通12
 横浜ユーラシア文化館「展示関連イベント」係
 ※1申込につき2名様まで。同伴者のお名前(フリガナ)もお書きください。
 ※抽選の場合、EAハマ発カード会員の方は優先的に申込を受け付けます。会員番号をご記入ください。

トークイベント 事前申込

『モンゴル大草原800年』ができるまで

ボロルマーさんとガンバートルさんから絵本の製作秘話と、ご自身が幼い時に体験した遊牧生活や社会主義時代の生活についてお話をうかがいます。

日 時 5月11日(日)14:00～15:30
 会 場 横浜市開港記念会館9号室
 参加費 1,000円
 定 員 60名 先着順

ギャラリートーク

日 時 5月15日(木)、6月2日(月)、7日(土)、22日(日)、
 26日(木)、7月5日(土)
 14:00～ ※各回30分程度
 参加費 無料(企画展観覧券が必要)

ワークショップ

モンゴルの民族衣装を着てみよう!

日 時 4月26日(土)、27日(日)、29日(火・祝)
 5月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)
 17日(土)
 時 間 10:00～16:00
 予定の変更および6月、7月の開催日につきましては当館ホームページでご確認ください。



ゲルに集まれ!

2025年5月10日(土)
 Saturday 10 May 2025

①ゲルの組立・解体

時 間 9:30～16:00
 ゲル解説 窪田新一(公益社団法人 日本モンゴル協会理事長)
 協 力 公益社団法人 日本モンゴル協会
 会 場 当館中庭

②モンゴル絵本のおはなし会 事前申込

モンゴル語と日本語で読み聞かせを行います。
 読み手 ことりの会、中図書館
 時 間 14:00～(45分程度)
 協 力 横浜市中図書館
 会 場 情文プラザ(横浜情報文化センター1階)
 座 席 60席 先着順

③モンゴルの民族衣装を着てみよう!

時 間 10:00～16:00



関連展示

さねかたたけし
實方剛写真展
**「モンゴルの野生動物と
 遊牧民の暮らし」**

日 時 展示会期中
 会 場 1階ギャラリー、旧第1玄関
 観覧料 無料
 協 力 (公財) 横浜市緑の協会
 よこはま動物園ズーラシア



2025年 秋 企画展 予告

山本博士コレクション 横濱・東西文化のランデブー
—眞葛焼、横浜写真から横浜彫刻家具まで

East and West Rendezvous in Yokohama: Makuzu ware,
 Yokohama Photograph and Yokohama Woodcarved Furniture
 from YAMAMOTO Hiroshi Collection

2025年10月11日(土)～2026年1月12日(月・祝)

Saturday 11 October 2025 to Monday 12 January 2026

当館空調設備の不具合により延期しておりました山本博士氏コレクション展を2025年10月11日(土)から2026年1月12日(月・祝)に開催いたします。

幕末の開港によって、横浜は東西の文化が往来する窓口となりました。西洋の文化や技術が日本に伝わり、日本の文化や伝統技術が海外に発信されました。さらに両者の衝突と融合によって、新たな文化が育まれました。

横浜で生まれ育った実業家の山本博士氏(株三陽物産代表取締役・宮川香山 眞葛ミュージアム館長)は、主に郷土横浜の文化や歴史に関わる文物を国内外から蒐集されています。そのコレクションの中には、横浜で造られ世界を驚嘆させた眞葛焼、横浜の外国商館が扱った文物、和洋折衷様式の横浜彫刻家具、西洋と日本の技術が融合した横浜写真などの逸品が含まれます。

これまで、眞葛焼、横浜写真、横浜彫刻家具、洋楽器などはそれぞれ個別の企画展等で紹介されてきました。今回、山本博士コレクションによって、それらが初めて一堂に会します。西洋と東洋が出会った街、横浜。そこで生み出された特色ある品々に充たされた空間に身を置いた時、私たちは何を感じ取るのでしょうか。

上: 横浜彫刻家具 アイリス意匠椅子 明治末～大正期 H. 103cm 山本博士氏所蔵
 下: 水辺二鶴細工花瓶(一對のうち)部分 初代宮川香山
 1876年(明治9)頃～1882年頃 H. 55cm 宮川香山 眞葛ミュージアム所蔵

